

朝ヶ丘中学校 第1学年学級活動指導案

平成26年9月30日(火) 第6校時

1年A組 生徒数21名 指導者

1年B組 生徒数23名 指導者

1年C組 生徒数23名 指導者

1. 題材名 心からの贈り物

出典 やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33

著者 新里健・島袋有子

2. 題材観

本授業では、他者の喜びそうな空想の贈り物を贈る。贈る者は、贈られる者に対する思いやりを表現することになるし、贈られる者からすれば、贈る者の優しさや愛情を感じるようになる。贈り物の交換によって、他者をどのように理解しているか、また、他者が自己をどのように見ているかをも学ぶ機会となってくる。この活動を通して、生徒間の良好な関係を築き、他者から思いやりのある贈り物を受けることによって、自尊感情を高めることができるようになる、と考える。

3. 生徒観

学校生活におけるルールや規範意識が乏しく、いろいろな場面において細かく指導を入れなければならない。女子生徒は、比較的落ち着きがあり、為すべきことはきちんとできる生徒が多い。入学時以来、仲間との関わり合いや協力して活動することは、十分ではなく集団としての力も弱い。しかし、明るい集団であり、徐々にではあるが、仲間を大切にす気持ちや学校生活のルールを守ろうとする意識が大切だとす気持ちなどが育ちつつある。

4. 指導観

「相手の立場に立って考えよう」「思いやりを持って仲間と接していこう」ということは、人として社会で生活していくうえで大切なことであり、生徒たちも言葉ではわかっていることである。では、実際どうすればよいのか。身に付いていない生徒にとってこれは難しいことである。

相手が喜ぶ贈り物は何かを真剣に考えさせることにより、「相手のことを知ろう」、「相手の立場を考えよう」とすることを体験させたい。また、贈り物をもらうことにより、相手からの優しさや愛情を感じ、自己肯定感を高めさせたい。そして、この活動を通して、相手を思う心について考えさせると共に、更にお互い良好な関係が築けるよう指導していきたい。

5. 参観のポイント

○仲間が喜ぶ心からの贈り物をしっかり考えることができているか。

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

① 心からの贈り物を考えることで、相手を知ろうとする、相手の立場に立って考えようとする心を育てる。

② 他者から思いやりのある贈り物をもらうことで、自己評価を高める。

(2) 評価規準

① 集団活動や生活への 関心・意欲・態度	② 集団の一員としての 思考・判断・実践	③ 集団生活や生活について の知識・理解
心からの贈り物を、しっかりと考え、意欲的に取り組もうとしている。	本時の活動から、相手に喜ばれる心からの贈り物を考えることができる。	相手を知り、相手のことを考えることが、思いやりの心に繋がるということを理解する。

(3) 本時の展開

展開	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 10分	1. 本時の活動を確認する。 ①「贈り物をするとき、どのようにして贈り物を選ぶか」各自に考えさせ、発表させる。 ②「心からの贈り物」というテーマで授業を行う。「真心からのプレゼントをもらって嬉しい」という体験をしてみたいと理解を求める。	・相手が喜ぶ贈り物を真剣に考える雰囲気をつくる。	【関】 観察
展開 35分	2. 活動の説明 ①班員一人一人に、想像上の贈り物を考えさせる。考えたものを用紙に書かせる。 3. 班で贈り物を交換する。 ①なぜ、その贈り物を選んだのか、贈り物を受け取った人は、それをもらってどう思ったか、などを意見交流する。 4. 全体に紹介する。 ①各班代表者は、受け取った贈り物を発表。	・教師がデモンストレーションを入れる。 ・贈り物をする人は、受け取る人にどういうものが喜ばれるかを考えることが重要であることを説明し、活動を開始する。 ・思いやりのある贈り物を考えるように指導する。 ・仲間との関わり合いが弱い生徒には個別指導。 ・班で代表の贈り物を紹介してもらおう。なぜ、それを選んだのか学級全体に紹介し、全体で共感させたい	【関】 観察 【思】 観察
	5. 学習のまとめをする。 振り返りシートの記入	・自分が欲しいと思っているのものをもらうことは、本当に嬉しいことであり、また、その人が何が欲しいのかを考えることは、相手のことを考えることにつながり、対人関係を良好にするうえで大切なことであることを説明する。	【思】 【知】 ワークシート